

ぺんぎん村 2007年度農園報告書

活動報告

2007年度 ペんぎん村は昨年と同じく、休日のイベント活動、平日のデイケアメンバーの社会参加活動としての日中作業という二本立てで農園にかかわっている。

休日のイベント 活動

これは主として小学生以下のこども対象の親子向けイベント。

5月 イチゴつみ 2週にわたって開催。参加者 延べ11人

7月 じゃがいも掘り 参加者4人

12月 キムチ講習会 参加者 11人 (+こども 9人)



↑ いちご摘み

どのイベントでも参加した子供たちが 芝生広場で、はだしになって駆け回り、木に登ってはしゃぎ、井戸水を汲んで喜ぶという光景が繰り返される。

農園の緑の空間は非日常の遊びの場として子ども達に受け止められている。



← キムチ講習会

日中作業としての活動

平日、デイケアのメンバーが平均2人、農園での農作業、販売活動を行っている。

この活動では、風の学校との共同事業も試みている。日中活動ではあるが、社会参加活動であるため、専従の職員がいるわけではなく、ボランティアさんの力に負う部分が多い。

毎週月曜は ひき売り

水曜は 市内デイケア施設での販売

木曜は 県庁内のかっぱでの販売

金曜は 農園近くの ギャラリー喫茶 陶音さんでの販売

などを行い、収穫した野菜の販売によって得た収益で、野菜の種・肥料・資材・販売備品の購入などを行っている。



野菜パックの お客様より



初めての赤ちゃんが離乳食を始める頃、これから体を作っていく物だから安心安全なお野菜がほしい、お野菜の本当の美味しさを知って好きになってほしい、と有機野菜を宅配してもらえるところを探していました。

インターネットで知ったぺんぎん村は、無農薬栽培のうえ、荒廃した土地を再び活性化し、福祉支援も行っていると知り、なんて地球や人に優しい農園だろうと即決断。少し離れた場所に住んでいる所を無理を言って宅配して頂ける事になりました。

実際届けられるお野菜はどれも本当に新鮮で美味しく、とても丁寧に作られたんだろうなあと感じます。私もベランダでミニ菜園をしていますが…完全無農薬でこんな立派なお野菜に尊敬感心しきりです。

その時々が一番が送られて来るので、お野菜の季節を知る事ができたり、自分では買った事のないような初めて食べるお野菜もあったり、それも旬でとても美味しく、新しい発見や知識も増え赤ちゃんだけでなく私にもいい事いっぱいです。

育児をしながら泥を洗ったり虫に気を付けたりは大変ですが、虫も食べないような野菜をまだ弱い赤ちゃんに食べさせる方が心配です。泥の付いた新鮮さも是非教えてあげたい事の一つです。

たまにお漬け物やお花などのサプライズがあるのも嬉しいです。

また、秋の収穫祭で一度農園に行った時、その緑の心地よさに心洗われました。振る舞われたごはんを集まったみんなでいただきますする。招待されたお年寄りの方々、歌や踊りで歓迎してくれる農園の方達。本当にあたたかい農園だなあと感じました。

そのおかげで赤ちゃんもお野菜が大好き！美味しく食べてくれて、現在1歳4カ月の体は農園のお野菜でできると言えるくらい基盤になってると思います。もう少し大きくなって実際に農園で作業のお手伝いができたら、お野菜が出来るところや大切さや感謝を教えてあげたいな…そう思っています。



キムチづくり講習会の参加者の方から

キムチ講習会に参加させていただき、初めて農園にも入らせていただきましたが親子でとても楽しい時間を過ごせました。

三歳の娘は農園を裸足で楽しそうにかけまわり、私も農園の雰囲気癒されました。

初めてのキムチ作りも、なかなか体験できることではないので、とてもよい経験になりました。使う野菜も農園の無農薬野菜だったので安心、みんなで分担して準備したりするのも久々のことだったので楽しかったです。手作りのキムチは美味しくいただきました。講習会の時にジャガ芋をすって焼いたチヂミもおいしかったです。また機会がありましたら参加したいと思いました。



← キムチに使う調味料

本格的なキムチ作りは初めてで、手順や材料など全く知識がなく参加させてもらいました。講師のキムさんや農園の方達が、手際よく、わかりやすく指導して下さいだったので、楽しくキムチ作りをすることが出来ました。

キムさんが急遽教えてくださった、じゃがいものチヂミがとても美味しかったので、持ち帰ったキムチで、キムチチヂミを作りました。市販のキムチとは違い、やさしい味で家族からも好評でした。

お料理の講習会は室内ですることが多いですが、農園の青空の下での講習会はとても気持ちよく、参加できてよかったです。

12月にしては、暖かい日曜、農園でのキムチ作り、とても楽しみにしていました。

韓国の方は、自宅で手作りし、とても美味しいと噂には、聞いていて、まさか、自分で出来るとは、感激！！

作ってみると、やはり、材料や調味料を揃えるだけでも、手間や時間、コストがかかり、とても、一人では、作れませんが、やはり、噂通り、手作りのキムチは、農園の白菜ということもあり、しゃきしゃきの歯ごたえで、とても、濃厚で、奥の深い味わい！！

(市販のものは、白菜が柔らかすぎ、葉臭い?)これを、頂くと、市販のは、買えない・・・今回、キム先生のお家、秘伝の●●●(ヒミツ!)のせいか、辛さの中にもマイルドさがありました。

また、緑豊かな、農園の中での、キムチ作りは、空気が澄み切っていて、なんとも気持ち良かったです。子供が何も遊具もない所で、のびのび、走り回る姿が、とても楽しそう！！

子供は、キムチ作りのにんにくの皮むきを手伝わせて頂き、それからというもの、家でもお料理のお手伝いをしてくれます。



藤枝白言誌

一月

新年明けましておめでとうございます。今年の一月は暖かい日が続いています。どうしたのでしょうか農園の野菜も、暖かいので、良く育って楽しいです。でもあまり暖かいので、ちょっと不安ですが、一月は畑作業も少ないので良太君晴彦君は体を持て余しています。それでも皆で頑張っています。



二月

二月になっても暖かい日が続いています。毎年二月は(ボカシ肥)作りをしています、毎木曜日に皆んなで作ります。一年分のボカシ肥を作ります。あと春蒔用の苗床土を作ります。葉物野菜も暖かいのでよく出来ています。それでも、一年中野菜を収穫することは大変ですね。今年はぺんぎん村も、ハーブ園を作りました。鈴木さんと二日で作りました。暖かくなったら見に来てくださいね。それから農園の竈と小屋も作り、良くなりましたよ。見に来てくださいね。

三月

三月になったら急に寒くなりました。どうしたのかね、毎日霜がおりて午前中は畑に入れません。中旬ごろまで寒い日が続きました。それでも野菜はよく育っています。三月は野菜の種子蒔きの月で良太君は急がしいです。(ポット)の種子蒔も夏野菜です。ポットに二百鉢ほど蒔きました。ハーブの種子もポットに蒔きました。これから畑作りに入ります。

四月

今年の気候は平年と違い桜の花が咲いてから霜がおりて野菜にだいぶ被害が出ました。じゃが芋の芽もだいぶ傷みました。四月の始めに夏野菜の種子蒔きもだいぶ進みました。今年もスイカ、キュウリ、ナス、トマト、トウガラシなど色々と芽が出て来ました。今年(イチゴ)を作りました。良く育っています。イチゴつみがまちどおしいです。



良太君晴彦君又ボランティアの私達も元気に働いています。

五月



毎日だいぶ暖かくなりました。今農園は忙しい毎日です。野菜の種子蒔きや夏野菜の苗も大きくなり、植床は出来ているので十日と十一日で全部植付をしたいと思えます。キュウリ、ナス、トマト、ピーマン、スイカなど植付予定です。

三月に植付したじゃが芋、里芋も芽を出しました。今月は良太君晴彦君の仕事も多く大変です。



六月

今年の六月は暑い日涼しい日と毎日気温の差が有り大変な月です。それでも中旬からは暑い日が多くなりました。梅雨に入りましたが雨があまり降りません。今月は春野菜も少なくなり、中旬ごろには夏野菜の収穫が始まります、そろそろじゃが芋の収穫です。里芋の土寄せや草取りと毎日頑張っています。

鈴木さん良太君晴彦君と私も元気で働いています。

七月

毎日暑くなりました。農園の方も、夏野菜の収穫です。色々と作付してあります。見に来て下さい。今年はじゃが芋、玉葱も良く出来ました。七月は葉物野菜は難しいのであまり作っていません。八月になると種子蒔きを始めます。良太君も晴彦君も元気で働いています。今年の梅雨は半ばを過ぎても終わりません。野菜はどうなるのでしょうかね。困りました。これが野菜作りの難しさですね。

八月

今年は八月になっても梅雨が終わらず、梅雨明けしたのが十二日ごろです。そのため夏野菜が遅れトマトなどは腐りました。後半は元気になり良くなりました。梅雨明け後は毎日暑い日が続く毎日 35 度以上の日が続く毎日が大変です。それでも良太君や晴彦君は元気に働いています。今年もスイカが良く出来ました。キュウリ、ナスなど夏野菜もまあまあの出来です。冬に作ったボカシ肥は良く出来ますね。冬に一年分作りますので大変助かります。来年も作ります。暑いので皆んなで頑張ります。

九月

今年も九月になりました。毎日暑い日が続く雨が降りません。秋野菜も枯れそうです。良太君と水をやっています。今年は秋野菜が良く出来るか心配です。九月中なのに毎日 32 度ぐらいあります。真夏の暑さです。それでも良太君晴彦君、鈴木さんも頑張っています。熱中症が心配です。下旬になれば涼しくなると思います。もう少しですからだに気をつけてがんばります。今年も(スイカ)が良く出来ました。甘かったです。これからも頑張りますよ…。



十月



十月になっても毎日暑い日が続きます。35 度もある日も有ります。白菜、大根など害虫にだいぶやられました。葉物野菜は早蒔きはだめで、十月に蒔いた物はだいぶ良くなってきました。下旬には販売も出来るようになりました、良太君は秋野菜の種子蒔きで頑張っています。後半には、里芋、さつまいも掘り上りました。良く出来ました。白菜、大根も十一月には収穫出来ると思います。後半はだいぶ涼しくなり秋本番です。作業の方も楽になりました。もう少しで冬になりますね。皆んな体に気をつけて働いています。

十一月

十一月になり葉物野菜も色々と出来るようになり、白菜も大根も、まあまあに出来ました。春取りキャベツ、ブロッコリーの植付をしました。それと玉葱も植付が終わり、良太君晴彦君には空いた畑に堆肥を入れたり、耕運をしたり、良くやっています。又良太君は種子蒔きがうまいので良くやってもらっている。これから取れる野菜は甘くておいしいですよ。



十二月

秋野菜の収穫も進み白菜、大根も良く出来たと思います。葉物野菜も今が一番美味しい時です。今植えている野菜も二月、三月には取れるように作っています。一年中取れるように作るのは大変ですね。十二月にキムチ作りもやりました。白菜も良く出来たので良かったです。良太君や晴彦君も元気に働いています。十二月は草堆肥を空畑にだいぶ入れました。良太君晴彦君も大変だったと思います。来年も頑張ります。よろしく。



これからのぺんぎん村のかかわりは・・・

農園も10年にならんとし、ぺんぎん村が設置するデイケア（小規模作業所）も10年を迎えようとしている。

ぺんぎん村が20年近く前に県・市に出した要望書を読み返してみると、「障害者、子供、お年寄りが遊び、学び、働く場」としての農園を求めていた。だが、その形態として確固たるものがあつたわけではなく、「農業公園」「冒険遊び場」等をイメージしていたと思う。

行政に働きかけるには外部の人たちにも訴えないということで、実際「農業公園をつくろう」という会の設立も行い、市に働きかけようとしていた時期もあった。

ぺんぎん村の中に「デイケア」が誕生し、「障害者がつくったからではなく、いいものだから買ってもらえる製品作り」をやることによって、障害のある人の職業的自立をめざそうと日中の「働く活動」を始め、「農園を障害者の働く場に」という方向を目指そうということになった。

それは2007年現在も続いているのだが、農園での「売り上げ」の上限はみえており、今の農園の広さで生活給を稼ぎ出すのは無理ということにははっきりわかってきた。

今年度も耕作をボランティアさんに頼らねばならない状況で、「農園を障害者の働く場に」というかかわり方の内容を考え直す時期でもあると思っている。

農園開設のための呼びかけに参加した市内の障害者・老人施設との最初の打合せの会議で、当時の県の担当者は目に涙を浮かべながら「障害のあるひとたちが戸外で太陽の下で汗を流して働く場所として」と目的を語ってくれたが、たぶん「働く」の意味は「福祉的就労」の域を逸脱しないものだったのであろう。



「障害のある人にも生活給を」は今、福祉サイドから大号令がかかっている「授産工賃をあげろ！」コールの起こる以前からの目標ではある。だが農園にかかわる専従職員の生活給は「福祉の制度」から補助金でまかなわれており、補助金の増額はない。

障害者には「障害者年金」があり、売り上げが伸び、授産工賃があがれば、総体的に収入はあがるが、「授産事業で、収益があがったら、工賃に反映させること」という「デイケア要綱」に縛られる限り、職員が事業収入をあげることにいくら力を注いでも、それは職員に反映することはなく、「障害者」に反映されるだけなのだ。職員の生活給のもとになる補助金額が、それなりのものであったら、なんの問題もないだろうが、現実には・・・。現在の障害者自立支援法の中での補助金体系で年間200万で常勤を雇うという基準をみれば、福祉関連の職員の給料体系の現実が想像されると思う。

これからどういふかかわり方が可能なかが今問われている。